

部門紹介

調剤部門



電子カルテと連動した調剤監査支援システムにより、薬の重複や相互作用などをチェックします。薬の量、使用方法などを確認し、疑問がある場合は医師に確認を行います。肝機能や腎機能など検査データに基づく副作用チェックが迅速に行えるしくみを作り、正確な調剤を行うため、画像監査装置を導入し、システムによる確認ができるように機器整備しています。

製剤部門



製剤室では、高カロリー輸液や注射用抗が

待遇

選考について

募集期間：当院HPにて受験をご案内します。
受験資格：薬剤師免許取得者または採用までに取得見込みである者。

給料

(初任給は、学歴や職歴に応じ、決定されます。)

薬科系大学(6年制)を卒業後、直ちに採用された場合[24歳]	薬科系大学(6年制)を卒業後、5年間の実務経験を経て、採用された場合[29歳]
月額 237,800 円	月額 270,200 円

※ 居住する借家等の家賃の支払額に応じて住居手当を支給(上限27,000円)

ん剤の無菌調製や市販されていない薬で治療上の必要性から医師の処方に応じて院内製剤の調製を行っています。さらに高カロリー輸液や注射用抗がん剤の無菌的な混合調製を安全に行うため、注射用混注監査システムを導入し、確実にチェックを行い、安心・安全な治療に貢献しています。

医薬品情報管理部門



医薬品や治験等に関する様々な情報の収集や医師、看護師、その他の医療従事者や患者さんへの情報提供を行うことで適正な薬物療法の発展に寄与し、診療支援を行います。医薬品情報の提供は電子カルテの薬剤部ページを効率的に利用し、リアルタイムな情報配信をしています。

注射・薬品管理部門

注射薬の供給は、オーダー情報に基づき、注射薬自動払出装置を利用した正確性、効率性の高い作業により、個人ごとにセットし

ます。また、薬品管理業務として、病院で使用される薬の購入管理・在庫管理を物流システムを利用して行い、業務の効率化に寄与しています。



薬剤管理指導部門



入院患者さんの薬物治療管理に積極的に関わっています。電子カルテから薬歴や、検査値などをチェックし、薬の効果や副作用などを確認します。医師、看護師と情報を共有しながら最適な薬物治療が提供されるよう、支援しています。

※ 通勤距離、通勤方法及び通勤回数に応じて通勤手当を支給
※ 要件に応じて宿直手当、時間外勤務手当、休日給、寒冷地手当等を支給

賞与

年2回(年4.50月程度) 令和5年度実績

通勤手当の例(新幹線通勤)

新潟駅⇄浦佐駅 90,466円(自己負担 9,740円)/月
長岡駅⇄浦佐駅 50,793円(自己負担なし)/月
※支給要件あり

勤務時間

始業8時30分、終業17時15分、休憩60分
(週38時間45分、1日7時間45分)

※ 週休日:日曜日及び土曜日
※ 休日:国民の休日、年末年始(12/29～1/3)

休暇

年次有給休暇は、初年度(4月採用)に15日付与、翌年は1月1日に20日付与。
※ ただし、20日を超えない範囲の残日数を翌年に繰越し。そのほか、夏季休暇(5日)、私傷病休暇、介護休暇、結婚休暇(8日)などがあります。

子育て支援

産前休暇/産前8週間
産後休暇/産後8週間
育児休業/子が3歳になるまでの期間
家族看護・子育て休暇/8日(年)
院内保育所「魚沼めぐめこ」を設置しています。

認定資格等保有スタッフ

- 病院薬学認定薬剤師(日本病院薬剤師会 認定)
- 医療薬学専門薬剤師(日本医療薬学会 認定)
- がん専門薬剤師(日本医療薬学会 認定)
- がん指導薬剤師(日本医療薬学会 認定)
- 抗菌化学療法認定薬剤師(日本化学療法学会 認定)
- NST専門療法士(日本臨床栄養代謝学会 認定)
- 医療情報技師(日本医療情報学会 認定)
- 認定実務実習指導薬剤師(日本薬剤師研修センター 認定)

設置装置

- 調剤支援システム
(散剤監査システム、水剤監査システム、全自動錠剤分包機)
- 画像監査システム 3台
- 嚴重管理薬管理棚 1台
- 麻薬管理システム 1台
- バイオハザード対策用キャビネット 2台
- クリーンベンチ 2台
- 注射薬混注監査システム 2台
- 注射薬自動払出装置 1台

病院概要

開 院	平成27年6月	設置者／新潟県
運営者	一般財団法人新潟県地域医療推進機構	
理事長	鈴木 榮 一	
病院長	鈴木 榮 一	
許可病床数	454床(内訳)一般病床/400床、感染症病床/4床、精神病床/50床 ※救命救急センター/14床、NICU/6床、GCU/6床含む	
診療科目	総合診療科、循環器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病科、呼吸器・感染症内科、消化器内科、神経内科、精神科、小児科、消化器外科・一般外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科※、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、矯正歯科、歯科口腔外科、病理診断科 ※現在診療を行っておりません	
主な医療機能	地域救命救急・外傷センター 地域周産期母子医療センター	地域災害拠点病院 地域がん診療連携拠点病院

アクセス



電車でのアクセス

上越新幹線 浦佐駅を利用した場合
東京駅 ⇄ 浦佐駅 約1時間30分
新潟駅 ⇄ 浦佐駅 約40分
※浦佐駅から徒歩 約20分
タクシー 約5分

車でアクセス

関越自動車道 大和スマートICを利用した場合
練馬IC ⇄ 大和スマートIC 約2時間10分
新潟西IC ⇄ 大和スマートIC 約1時間20分
※大和スマートICから車で約5分



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

魚沼基幹病院は、新潟県が設置し、一般財団法人新潟県地域医療推進機構が運営する病院です。
病院に併設される新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センターと連携し、地域医療に貢献する医療人の育成にも力を注ぎます。

一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

事務部 総務課 人事係 採用担当

〒949-7302新潟県南魚沼市浦佐4132

Tel 025-777-3200(代) Fax 025-777-2811

魚沼基幹病院 検索 uonuma-kikan-hospital.jp/

facebook.com/UonumaKikanHosp

twitter.com/UonumaKikanHosp

instagram.com/uonuma_kikan_hospital/



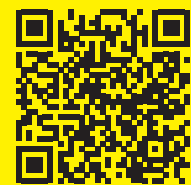
新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

薬剤師募集案内



最適な薬物治療と安全性を確保し、
専門性を生かしてチーム医療を支える
病院薬剤師。

薬剤師
職員募集





部門方針

- チーム医療に参画し、患者さんの治療に貢献します。
- 医療安全を意識したシステムや体制作りにも常に取り組みます。
- 全職員がいきいきと仕事に取り組み、達成感をもてるような業務構築をします。
- 医療チームの一員として薬物療法に参画するための能力と適正を備えた薬剤師を養成します。
- 専門薬剤師の養成を視野に入れ、指導的役割を果たせる人材を育成します。

部門体制



教育・研修

新人薬剤師の教育、各種認定など個々のスキルアップを支援しています。

	全体研修
4・5月	・医療安全研修 ・感染防止研修
6・7月	・BLS 研修
8・9月	
10・11月	・医療安全研修 ・感染防止研修
12・1月	
2・3月	
各種勉強会(随時)	

	新人研修
基礎研修	集合研修(新採用研修・院外新人研修・各種勉強会、学会など)
OJT	OJTによる指導(6月頃から日直補助、7月頃から日直・当直スタート)
成長確認	月毎にチェックリストで振り返り

先輩の声



鈴木 さくら

採用年：2016 年

子

育て中の人働きやすい環境が整っていることが魚沼基幹病院の魅力のひとつです。私は、入職した、2016年に妊娠、出産を経験しました。妊婦健診には特別休暇が利用できます。幸い妊娠中は、大きな問題なく経過しましたが、双子妊娠もあり、産前産後休暇とは別に、最大2週間の特別休暇が取得できることで体調不良時も安心でした。当院入職前は、メーカー勤務であったため、早く仕事に慣れたいと思い、産後休暇後すぐに職場復帰しましたが、子供たちが1歳半になるまで1日1.5時間の育児時間制度を利用しました。また院内保育

園が設置されているため、子供たちについての連絡がスムーズで、安心して働くことができました。子供の発熱等により急なお休みを取ることも多いのですが、職場の育児への理解も高く、積極的に育児に参加している男性職員も多いため互いにフォローしあって業務にあたっています。薬剤師としての業務は未経験でしたが、周囲のサポートを受け調剤業務から病棟業務まで様々な経験を積んでいます。今では、薬剤部内の業務に留まらず委員会活動、学会へ参加等、充実した日々を過ごしています。

私

は、薬剤師がマルチに活躍できる薬剤部の体制と医療安全に関するシステムのバックアップが充実している点に魅力を感じて魚沼基幹病院を選びました。入職当初は、日直や当直といった一人での勤務について不安がありましたが、当院では、調剤では画像監査システム、注射薬の払出にはアンブリピッカーなどの安全に配慮した複数の機器が導入されています。そのため、安心感をもって業務に臨むことができます。

また、初年度は、指導担当者を1対1で設定してきめ細かく指導してもらうことで、確実にステップアップできます。病棟業務では、患者さんの病態や薬剤の使用について、多職種でディスカッションすることがあり、机上の学習だけではわからない現場ならではの考え方や支援方法等とても勉強になります。休日は、友人と出掛けたり、自分の趣味に時間を使っています。夏季休暇は5日間取得でき、リフレッシュに有効活用しています。

須藤 清香

採用年：2022 年

私

が魚沼基幹病院で働きたいと思ったきっかけは、魚沼基幹病院での実務実習です。実習の際に医師や看護師から様々な相談を受けている先輩の姿を見て、一緒に働くスタッフから信頼される薬剤師になりたいと思い当院を選びました。配属を固定しない体制をとっているため、内服調剤、注射薬払い出し、抗がん剤調製、レジメンチェック、病棟薬剤業務等、入職早期から様々な業務を経験することができます。

また、研修支援が充実しており、学会への参加や、認定取得など自己研鑽のモチベーションにつながっています。病棟薬剤業務では循環器内科を担当しており、カンファレンスで医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー等の多職種と連携して、最善の医療が提供できるように日々尽力しています。日当直の代休や、有給休暇を利用して家族とBBQや友人とのウィンタースポーツなど余暇を楽しむことでリフレッシュしています。

奨学金の返還支援をしています(最大500万円)

魚沼基幹病院において薬剤師として勤務する職員が奨学金を返還する場合に、魚沼基幹病院が奨学金を当該職員に代わって貸与者へ返還することにより、当該職員の経済的負担の軽減を図るとともに、魚沼基幹病院における薬剤師の継続的な確保に資することを目的としています。



支援対象奨学金

独立行政法人日本学生支援機構奨学金

支援対象者	支援者数	支援金額	支援対象期間
①支援を申請した日から10年以上継続勤務する意思がある方※1	予算の範囲内において毎年決定 ※2	被支援者1名につき、総額は500万円を上限 ※3	被支援者となった月の属する年度末まで(再申請可)
②支援を申請する年度内に支援対象奨学金を返還する方			
③支援対象奨学金の返還を延滞していない方			

※1 令和6年度以後に実施する職員採用試験に合格後、常勤薬剤師として採用された業務に従事する40歳未満の職員

※2 決定した被支援者の数を上回る希望者がいる場合は、選考により被支援者を決定します。

※3 被支援者の返還金の額が500万円を超える場合、500万円を月の返還金の額で除した月数(端数切捨)の支援とします。

申請書類 ★原則として毎年度の4月5日までに申請すること

- (1)奨学金代理返還支援申請書(指定様式)
- (2)支援対象奨学金を貸与した機関が発行する支援対象奨学金の貸与を証する書類(初回の申請時に限る。)
- (3)返還金の額を確認できる書類(返還計画が分かる書類)
- (4)このほか、病院長が必要と認める書類

※初回申請に限り、病院に採用された月の翌月の末日までに申請すること。

支援方法(代理返還)

独立行政法人日本学生支援機構に対する返還金の月毎の送金を魚沼基幹病院が行います。

支援の停止及び休止

- 被支援者が以下に該当するに至ったときは、将来に向かって代理返還支援をやめるものとします。
 - (1)継続勤務の意思がなくなった場合
 - (2)その他病院長が不適切と判断したとき
- 各月において被支援者が業務に従事した日数が月10日未満のときは、翌月分の代理返還支援を休止します。

詳細は、魚沼基幹病院ホームページからご確認ください。

薬剤のジェネラリストからスペシャリストへ、多職種との連携を深め、最善の薬物治療を提供。

近年、医療の高度化、多様化に伴い、病院薬剤師を取り巻く状況は大きく変化し、薬剤師の求められている役割も多様化しています。2010年には厚生労働省から「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の医政局長通知が出され、その中でチーム医療の中で薬剤師の役割が明確に打ち出されました。魚沼基幹病院薬剤部では、チーム医療の推進の中で良質な薬物療法の提供と医療の安全確保に貢献するという基本方針の下、医師、看護師等の他の医療スタッフとの連携の中で果たすべき役割を意識しながら業務を進めています。病棟での薬剤業務は、調剤や注射薬管理部門等の薬剤部基本業務との併任で担当し

ています。患者さんへの服薬指導、薬剤の種類、投与量、投与方法、持参薬チェックなど可能な限り関わるようにしています。がん化学療法では、レジメン監査、副作用モニタリングや対策立案と処方提案など、安心安全な薬物治療に貢献しています。薬剤部基本業務では安全面を重視したさまざまな監査システム、自動払い出し装置を導入しており、その効果を発揮しています。薬剤部では、最善の薬物治療を提供するために、研鑽を重ねています。日々の業務に着目し、エビデンスを集積することで、臨床研究に繋げ、学会発表にも積極的に参加しています。薬剤のジェネラリスト、さらにはスペシャリストとして幅広い知識を習得した信頼される薬剤師を目指しています。